



《教育長メッセージ 第80号》

『1月29日の出来事』

教育にかかわるメッセージが続いたので、77号の「日の出」にリンクして、「1月29日の出来事」を紹介します。

私は、冬の時期、満月の日を楽しみにしています。

早朝の満月です。

なぜかという、冬の早朝の満月は、大山より北側の丹沢の峰々に沈むのですが、同じタイミングで、九里の土手の大谷峰から太陽が昇るからです。真ん丸の月と真ん丸の太陽が西の空から東の空にリレーするのです。

実は、12月の満月の日は、どうなるか楽しみにしていたのですが、西の空に雲が広がって、山の端に届く前に、月が雲に隠れてしまいました。

そして、1月29日です。

前の日の夕方、東の空に浮かぶだろう満月を楽しみにしていましたが、空は雲に覆われていました。

ただ、天気予報では、次の日は冬晴れとのこと、私は、期待しました。

朝、真っ暗の中こどもセンターに向かう車から、西の空の真ん丸のお月様が見えました。大山丹沢の上には雲がありません。

6時過ぎにこどもセンターにつきました。

東の九里の土手の向こうの東の空には、少し、東雲がかかっていますが、快晴の冬晴れの朝です。

いつもの朝の準備をして、仕事しながら、数分おきに、西の空の満月を気にしていました。

こどもセンター2階の教育委員会の事務室フロアの真ん中に立つと、西の空の満月と丹沢の峰々と、東の空がうっすらと明るくなり、太陽の光が放たれる九里の土手が見えます。

6時40分を過ぎると、清掃の方々がフロアに来ました。

フロアの真ん中で、あっちを見たり、こっちを見たりしている私に、

「どうしたんですか。」と声をかけます。

「今、あっちで満月が沈もうとしているんです。こっちからは、もうすぐ太陽が昇ってくるんです。今日は、一年に一回タイミングよく、入れ替わるのかもしれないので、見ているんです。」

6時45分過ぎ、ついに、満月が丹沢の山の端にかかりはじめました。清掃の方々も手を止めて、フロアの真ん中で満月を見ます。

「もうすぐ沈んじゃいますね。」

「太陽はもう少し。がんばれ。」

光は煌々と放たれているのですが、わずかな東雲が、太陽が顔を出すのを遮っています。

「月沈んじゃいましたね。」

「太陽、もう出てるのに、あと少し。」

清掃の方々は、仕事に戻りました。

1、2分でしょうか、すぐに日の出となりました。

忙しい日々の中の1月29日の早朝の出来事でした。

馬鹿なことにこだわって時間を忘れて夢中になる自分が可笑しくなりました。

来年の冬、12月、1月ごろの満月の日に、また、チャレンジしてみようと思います。

これからは、月に1回の満月は、朝、大山丹沢の山の端にかかる前に、太陽の光で消えていくことになります。

次は、あと一年後です。

次回は、『第3期えびなっ子しあわせプラン①』と題して、私の思いや考えを述べてみたいと思います。